

腎腫瘍の一例

榎木英介¹⁾、伊藤智雄¹⁾

1) 神戸大学医学附属病院病理部

【現病歴】 50代男性。左腎に腫瘍を認めたため、部分切除術施行された。

【肉眼所見】 16×15×12mmの境界明瞭な黄白色の腫瘍を認めた。

【組織所見】 腫瘍は線維性の被膜を有する。腫瘍細胞は小型均一で好酸性の胞体を持ち、髄様の増生を示す。一部に myxoid な背景を有する部位もみられる。比較的太い血管がみられ、腫瘍を取り巻く像も認める。腫瘍細胞間にはスリット状の細かい血管も認められる。そのほか硝子変性や上皮様の構造もみられる。

【問題点】 病理組織学的診断

